

バイオ ひょうたんごっこ[®]の 使い方 (ひょうたんの中身の出し方)

この度は バイオ ひょうたんごっこ[®]をお買い上げいただきありがとうございます。

		容量	用途
内容	酵素(水玉の袋入り)	10g(1袋)×5個入り	植物繊維分解酵素
	クエン酸(銀色の袋入り)	0.2g(1袋)×5個入り	pH調整用
作用条件		酵素濃度:0.5%、作用温度:40℃前後、作用pH:4.5程度	

◆酵素使用の目安【千成ひょう】容量:100~200mlの場合1袋で10個程度【中型ひょう】容量:1000ml程度の場合1袋で2個程度 ◆バイオ ひょうたんごっこ[®]1箱(5袋)で千成ひょうたんが約50個処理できます。

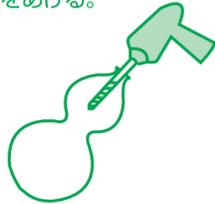
1 酵素液を作る

酵素(水玉の袋)とクエン酸(銀色の袋)、各1袋を容器に入れぬるま湯(40℃前後、100ml)で溶かす。



2 穴をあける

ドリルまたはキリ、釘などで穴をあける。



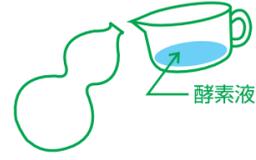
3 空洞を広げる

長い棒で、つついたり、かき回したりして空洞を広げる。



4 酵素液を入れる

①で作った酵素液を③であけた空洞に注入する。
千成ひょうたん:10分の1ずつ
中型ひょうたん:2分の1ずつ



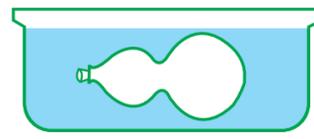
5 中身を溶かす

酵素が中身を溶かし、空洞が広がる。時々ゆすりながら、ぬるま湯を足し、布などで軽めに栓をする。



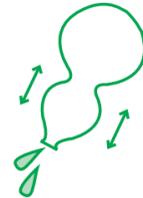
6 浸漬する

酵素の働きで空洞があいてくるので、ぬるま湯を口まで満たす。水に沈めた時ほとんど浮かなければ、中身が溶解されている(1日~2日)。(浮く場合は⑤に戻る→繰り返す)



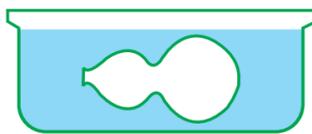
7 種を出す

ひょうたんをゆすり、種を出す。種が一度に出ない時、水を入れ替えながら、この作業を繰り返す。(最初の酵素液は捨てずに④で利用してもよい)



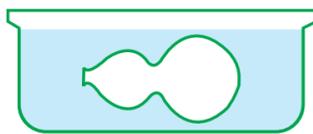
8 表皮の除去

水に1~2週間浸し、表皮を軟らかくする。タワシなどでひょうたんの表面を削る。この際に中身の溶解に使用した酵素液を使用すると作業は速まる。



9 仕上げ

仕上げの水漬けは、できるだけ丁寧に行うほうがよい。あくが出なくなるまで、何回か水を入れ替える。



10 乾燥

ひょうたんを逆さにし、日の当たる場所で、一気に乾燥させる。



11 完成

楽しみ方:模様をつける、絵を描く、つやを出すなどして完成させる。



「ヘチマ」たわしの作り方

バイオ ひょうたんごっこ[®]を使って表皮をきれいに取り除くと、繊維だけのヘチマたわしが7~8時間で作れます。

◆バイオ ひょうたんごっこ[®]1箱(5袋)でヘチマが約5~10個処理できます。

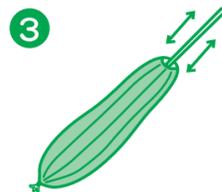
酵素 クエン酸



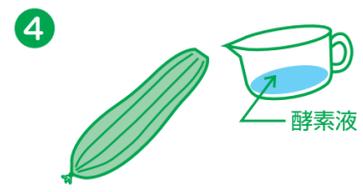
酵素(水玉の袋)とクエン酸(銀色の袋)、各1袋を容器に入れぬるま湯(40℃前後、100ml)で溶かす。



収穫したヘチマの茎元の方を500円玉大の大きさに切り落とす。



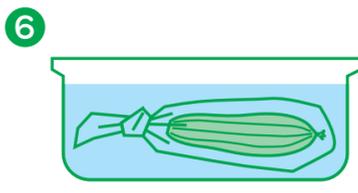
棒で穴を開けながらつつき、中身の綿のようなものをある程度どろどろにする。



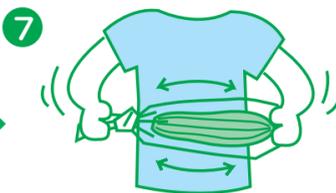
ヘチマの中へ酵素液を流し込む。



酵素液を入れたヘチマをビニール袋に入れ、できるだけ空気を抜き口を結ぶ。



このビニール袋に入れたヘチマを40℃前後のぬるま湯を入れたバケツ等に浸ける。



約1時間おきにヘチマを振る。

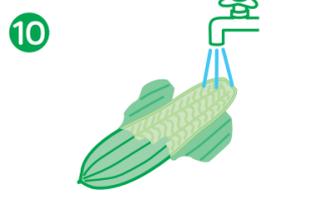


ビニール袋から取り出し酵素液が減ったら、ぬるま湯をヘチマの口いっぱいまで補充する。

⑤~⑧の作業を7~8回繰り返す。



ビニール袋の中でヘチマの表皮はがれ始め、酵素液が漏れ出す。



ビニール袋から取り出し、表皮を完全にはがしてよく水洗いする。



乾燥させてヘチマたわしの完成。

注意

本品が眼・皮膚に触れると炎症を起こすことがあります。触れた場合には直ちに多量の水で洗い流してください。また、吸い込んだ場合は、直ちに空気の新鮮な場所へ移動してください。症状が激しいときは、医師に診断を受けてください。本品は食べられません。

(問合せ先) ヤクルト薬品工業株式会社 営業部

〒105-8664 東京都港区海岸1-10-30 TEL.03(5401)5119 FAX.03(5401)5120

E-mail:yakultph@nifty.com

URL:https://www.yakult.co.jp/yipi/

特許第2761831号